

[成果情報名] 湧水で養殖されたサクラマスの人体寄生虫保有状況

[要 約] 湧水で養殖されたサクラマス 60 尾を解剖し、*Metagonimus* 属吸虫及び日本海裂頭条虫の寄生状況を調査したところ、寄生は確認されなかった。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 指

[キーワード] 湧水、養殖、サクラマス、人体寄生虫

[背景・ねらい]

近年、あらゆる食品に対して安全・安心を求める考え方が定着している。養殖マス類についても例外ではなく、一部大手スーパーから寄生虫についての安全性を証明して欲しい旨の依頼を受けた業者もある。現在まで、淡水で養殖されたマス類から人体寄生虫が確認された例は全く無いが、一般には、マス類には寄生虫がいるという認識がある。

そこで、淡水である湧水で養殖されたサクラマスについて、人体寄生虫の有無を確認した。

[成果の内容・特徴]

1. 卵から一貫して湧水で養殖されてきた雌のサクラマス親魚 60 尾について、採卵後、人体寄生虫の寄生状況を調査した。調査対象として、様々な寄生虫がいる中でも人体寄生虫として知られている *Metagonimus* 属吸虫と日本海裂頭条虫の有無を調査した。
2. *Metagonimus* 属吸虫については、寄生すると周辺部位にメラニン色素が沈着することが知られているため、体表のメラニン色素の沈着を目安に目視で確認した。
3. 日本海裂頭条虫については、サクラマスを 3 枚におろし、身の部分を厚さ 5 mm 以下の薄切りにして、寄生虫のものと思われるシストの有無を確認した。
4. 今回の検体からは、人体寄生虫は全く確認されなかった。

[成果の活用面・留意点]

1. ニジマス、イワナなど、淡水で養殖された他のマス類についても同様な調査を行うことが望ましい。
2. *Metagonimus* 属吸虫の感染期は水温 15℃を越えた時期であること、サクラマスにおける日本海裂頭条虫のプレロセルコイド（寄生虫の発育ステージの一つ）の発見率は 8 月以降に上昇することが知られており、本調査に当たってはその実施時期を秋以降にすることが望ましい。
3. 水産用医薬品の残留状況調査などと同様、本調査を継続することで、淡水で養殖されるマス類の安全・安心を売り出すことが出来、それらの生食需要に結びつけることが可能となる。
4. 検体（魚体）は生であっても凍結（半解凍）状態であっても寄生虫の確認しやすさにはそれほど影響は無いと言われているが、切り身にしやすいのは半解凍状態である。
5. *Metagonimus* 属吸虫が人体に寄生した場合、大量に寄生して初めて軽い腹痛、下痢などの症状を引き起こすと言われている。日本海裂頭条虫が寄生した場合、ほとんど自覚症状がないことが知られている。いずれの寄生虫についても、虫下し剤で簡単に駆虫することが可能である。

[具体的なデータ]

表1 検体と調査結果

調査魚種	サクラマス (赤川そ上系)
採取年月	2007年10月
性別	雌
尾数	60尾
平均尾叉長	35.9 cm
平均体重	496 g
飼育用水	淡水 (湧水)
水温	8~9℃

調査結果

Metagonimus 属吸虫	なし
日本海裂頭条虫	なし

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成19年度

研究担当者：高橋伸明

発表論文等：平成20年度全国養鱒技術協議会魚病対策研究部会活動報告 (予定)